

授業科目

リハビリテーション医学

【担当教員名】 真柄 彰	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・義肢
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要・一般目標 : G10】

リハビリテーション医学の対象となる代表的な疾患・外傷を通じて、リハビリテーション医学の特質である障害学、基本的な診断学、治療学について学習する。障害に対応するための家庭・社会的環境の評価法とその改善のアプローチを学習する。

【学習目標・行動目標 : SBO】

1. 代表的な疾患や外傷について生理学・運動学・高次脳機能学・障害者の心理などの障害に関する機序を理解する。
2. 具体的な治療内容について説明できるようになる。
3. 障害に対応するための機能障害・能力低下・家庭・社会的環境の評価法とその改善のアプローチを説明できるようになる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳卒中のリハビリテーション（1）	1, 2	講義
2	脳卒中のリハビリテーション（2）	2, 3	講義
3	疾患と障害の関係-ICIDHとICF	3	講義
4	脊髄損傷のリハビリテーション（1）	2, 3	講義
5	脊髄損傷のリハビリテーション（2）	1, 3	講義
6	機能障害・能力低下の評価の重要性	3	講義
7	パーキンソン病のリハビリテーション	1, 2	講義
8	機能障害にはどんな評価方法があるのか	3	講義
9	神経筋疾患のリハビリテーション	1, 2	講義
10	装具と義肢	2	講義
11	脳性麻痺のリハビリテーション	1, 2	講義
12	末梢循環障害・糖尿病のリハビリテーション	1, 2	講義
13	心筋梗塞のリハビリテーション	1, 2	講義
14	呼吸器疾患のリハビリテーション	1, 2	講義
15	まとめ	1-3	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	リハビリテーション総論	椿原彰夫	診断と治療社	2008年 3,600円
参考書	標準理学療法学・作業療法学 基礎専門分野整形外 立野勝彦 科学 第2版		医学書院	3,000円
その他の資料	プリント配布 edulan上に参考ファイルを提示する			

【評価方法】 出席 15%程度 定期試験 85%程度	【履修上の留意点】 予習復習にこころがけること
----------------------------------	----------------------------